

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100550		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター上北方		
所在地	宮崎市大字上北方717番地1		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&jisyosyoCd=4590100550-00&PrefCd=45&Version=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、男性のご利用がなく、9名全員女性です。女性だけならではの世界観が感じられるような環境づくりに取り組んでいます。昼食と夕食は必ず調理にどなたかが関わり、食器洗いもご利用者様をお願いしています。洗濯物たためも、職員が関わらなくても、みなさんで名前の確認をしながら「これはあなたのですね。」などと言合いながらたんでくださっています。ご利用者同士の喧嘩がなく、お互いに声を掛け合って支えあっていらっやいます。職員は過剰な介助や介入をしないよう、ご利用者本人の今日を生きる希望を支えることがほほえみ理念であると理解し、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな農村地帯にあり、周辺のほとんどは田畑であるため買い物や外出の難しさはあるが、ホームで月1回陶芸教室を開いたり、地域行事に参加するなど、楽しめるよう工夫をしている。陶芸の作品は廊下に展示している。管理者と職員は、理念にある「笑顔あふれるホームづくり」を実践できるよう、今日をどう生きるかを考え、元気で明るい日常生活を支援している。管理者は、積極的に地域との交流を図り、地域密着型サービスの理解を深め、協力を得られるよう努力している。防災訓練では、地域消防団の参加もあり、協力体制を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について理解をする為の勉強会を9月に実施。まだ導入部分にすぎないため、再度理念の紐解きをして、理解を深める勉強会を予定している。	理念は全職員で話し合い、作成している。新人職員にも勉強会を通して、理念の意味や理解を深め、共有し、笑顔あふれるホームづくりを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中心メンバー(自治会役員等)とは交流が出来ているが、近隣住民との顔合わせがまだまだ少ない。	管理者や職員は、地域で行われる行事等に積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。ホームでも駐車場を活用し、祭りを開催するなど、立ち寄りやすい雰囲気づくりをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ向けた講演会などを企画し、発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新聞の発行が少なく、報告書と口頭での報告が多かったことで、わかりづらいつとの指摘を受けた。	運営推進会議では、ホームの活動報告や新たな取組(認知症徘徊模擬訓練について)への話し合いや協力依頼を行うなど、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症ネットワーク研修を通して、市の計画指導係の方々と年3回の担当者会議を実施した。	担当課の開催する研修に参加することで、双方に行き来し、指導を受けるなど、協力関係を築いている。報告書などの書類の提出は窓口に出向き、話しやすい関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング等で虐待防止の声かけをしており、実践している。(斉藤)	年に1回、身体拘束についての研修に参加し、勉強会で再確認している。また、毎月のミーティングで話し合い、正しく理解できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待防止については注意を払い、利用者の皆さんが生活しやすい環境づくりをこころがけている。(永田)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、社内研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書による説明と面談時間を余裕をもって配分している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、普段は会話に出てこないような疑問点等を発言できる機会としている。	家族が来訪するたびに、気になることはないかを聞くようにしている。年2回開催される家族会での意見を反映できるよう、職員会議や運営する母体へ相談するなどの努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談を定期的実施している。	管理者は、日頃から職員と話す機会を設け、意見や提案を聞いている。また、半月に1回は面談を行っている。ホームの構造上の問題は代替の活用法を検討するなどして、運営やサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者には自己評価制度、職員個々にはキャリアアップ制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画をたてて、内・外の研修を受けることが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しており、意見交換会や勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と声かけを行い、何でも話せる信頼関係ができています。(永田)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会連絡等には日常の様子や最近の様子を伝え、安心していただくことで、家族からの話を聴きやすい雰囲気作りを心がけている。重要なことはスタッフで共有していることも伝えている。(新名)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度サービスを見直し、対応している。家族等からの聞き取りや本人様の希望に添うサービスの導入も検討している。(斉藤)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に洗濯物をたたんだり、干したり、料理をするなど、家事に積極的に参加していただいている。職員が教えていただくことも多い。(岩田)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご様子を話し、ご家族の気持ちを受け止められる心配りが必要と思っている。(永田)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に食事をする機会をつくっている。	知人が訪ねてきたり、職員と一緒に自宅周辺に出掛けたりしている。家族との外出や食事をする機会を設け、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立がないように席の配慮を行っている。利用者同士が関わり、支えあう姿が多く見られる。(斉藤)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても暑中見舞いのやりとりなど、近況などをうかがっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、職員全員でカンファレンスをしている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用し、思いや意向について、全職員が個々の視点での気づきを記入し、職員会議や回覧を通して共有している。日々の記録も気分の変化がわかりやすい様式になっている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を用いることで、思いや意向を把握し、共有しているが、ケアの実践で対応の違いがあったり、介護記録への連動性が少ない。共有した情報をケアに生かすよう取り組みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から情報をうけとり、本人の思いを知ろう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないことをアセスメントし、できるだけ自分でできることを支援するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスをしている。家族の面会時にこまめな報告、家族の意向を伺うなどしている。	担当職員が情報を収集し、カンファレンスを行っている。その内容と家族の意向や意見を反映した介護計画を作成している。3~6か月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しや変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉をそのまま記入し、それに対する気づきも記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保険外サービスとして、色々検討している。今のところ出張床屋、陶芸教室などを利用しているが、他のインフォーマルサービスを模索中。		

宮崎県宮崎市 グループホームニチイケアセンター上北方

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠くまで外出しなくても近隣の庭の植木で花見を楽しんでいただけるよう、企画の途中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診可能な主治医を選んでいただき、その主治医との連携をしている。	契約時にかかりつけ医の希望を聞いているが、協力医が毎日訪問していることから、変更する利用者が多い。専門医の受診は、基本的に家族が対応するが、困難な場合は職員で対応している。受診時は状態の変化がわかるよう、FAX等で情報を交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が健康チェックに来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を文書を用いて説明している。	契約時に重度化や看取りに関しての指針を文書で説明している。看取りを行う場合は、その在り方や方法を話し合い、家族や職員、関係者がチームで支援に取り組み、状態をみながらその都度話し合い、確認を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施している。	地域の消防団に協力を得て、年に2回、防火訓練を実施している。水害などの災害時は、ホームが避難場所となっており、地震対策や初期対応の訓練については検討中である。AED(自動体外式除細動器)の設置については、法人の上層部に依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣やトイレ介助の際、プライバシーを重視し、ご本人の嫌がることはしない。(永田)	言葉かけの方法についてチェックし、不適切な対応にならないよう注意している。支援中に気づいた場合は、その都度、指導している。接遇についての研修に参加し、職員会議や勉強会で復命している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	口に出す言葉ではなく、素振りや表情の観察、それにもとづき、スタッフと利用者本人が希望している気持ちを利用し、日常のケアとして働きかけている。(新名)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、ケアを行っている。希望に添えるよう努力している。(斉藤)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の楽な服装を心がけ、強要はしない。髪をといたり、最低限の化粧は出来るよう気を配っている。(岩田)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて野菜を切ったり、食器洗いなどを皆さんと協力して食事作りをしている。(永田)	日々の食事は、利用者個々の力量に応じて一緒に調理や後片付けを手伝ってもらっている。行事食は、利用者と献立を考えたり、出前を取っていつもと違う雰囲気を楽しんだりして食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が少ない方には積極的に摂取をすすめ、一人ひとりに合った食べ方が出来るように支援している。(安井)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、口腔ケアを行っている。また、必要に応じて歯科医の往診を行っている。出来るだけ本人に歯磨きをしていただき、仕上げを職員がしている。(斉藤)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレでの排泄ができるように支援している。(日高)	本人の様子を見ながら、排せつのサインを見逃さないようにし、促しや誘導により布パンツに移行した事例もある。夜間は、失敗を減らすため、ポータブルトイレを使用し、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、足の運動器具で下半身を刺激して予防を試みている。また、日々の排便チェックをし、職員が情報を共有しながら予防にとりくんでいる。(岩田)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を確認し、入浴の声かけをしている。入浴を希望された方には気持ちよく入浴していただいている。(永田)	夜間以外は希望する時間に入浴ができるよう支援している。週2～3回は入浴できるように声掛けをしているが、無理強いせず、本人の意思を尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自入眠時間が異なるので、眠れない方には無理に入室をすすめず、飲み物などご自分でペースで入室していただく。室温にも注意している。(荒木)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで一人ひとりの薬剤情報を常に見られるようにしている。日々確認することで、目的や用法等の確認に努めている。(斉藤)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の一日の流れの中で、今までの生活で培った手先を使った作業や体験を出来るだけ見つけ、スタッフと共に行うことで、今を楽しんでいただけるよう支援している。(新名)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と一緒に外出される方がいる一方で、全員で一緒に遠足というのが少ない。	希望に沿って散歩は行っているが、他の外出は福祉バスなどを利用しなければならず、買い物や花見などに出掛ける支援が難しいため、個々に家族の協力を得ている。	家族から、全員で出掛けられる行事をしてほしいとの希望がある。日常的な外出がほとんどなく、全体で楽しめる機会を設けるよう取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける方はいらっしゃるが、手紙のやり取りはない。(永田)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は快適で過ごしやすい温度を設定し、日差しが強いときはカーテンをするなどの配慮をしている。(安井)	リビングは日当たりが良く、窓の外に広がる畑や山々は四季の変化を感じられる。廊下の途中にソファが置いてあり、適度に休憩ができる。畳やベンチ風椅子など、各々、好きな場所でくつろげるよう工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の固定にとらわれず、その時の話し相手や共同作業の相手に合わせて、1日の中でも席を自由に移動することで、気分や体調に合わせた居場所になるよう努力している。(岩田)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた物を居室に置き、居心地の良い環境づくりを心がけている。(斉藤)	書き物ができる机、家族写真など、その人らしく過ごせるようレイアウトし、居心地よく過ごせる工夫がなされている。居室の換気や寝具の整え、ベッドの高さなど、気持ち良く安全に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態の変化に対応し、本人に合った福祉用具を提供する。時間がかかっても本人が自立できるように過剰な介助をしない。(斉藤)		